

# ノロウイルスに注意

11月から冬場にかけて、ノロウイルスによる感染性胃腸炎にかかる方が増えます。

ノロウイルスとは、ヒトだけに感染して下痢やおう吐等を引き起こし、ヒトの小腸で増殖するウイルスです。

ノロウイルスの感染力は強い  
ため、乳幼児や高齢者の施設などで、集団感染を起こすこともあります。また、一般家庭でも、家族の中に患者がいると、二次感染を引き起こすことがあるので、十分注意が必要です。ノロウイルスは、口から体内に入り感染します。日ごろから、外出後・調理前・食事前・トイレ後など、必ず石けんで手を洗う習慣を身につけ、感染を予防しましょう。

## ○おもな症状

ノロウイルスに感染すると、1日から2日で下痢・おう吐・腹痛・軽度の発熱の症状がみられます。通常、これらの症状が1〜2日続いたあと、後遺症もなく治ります。感染しても発症しない場合もあります。

子どもや高齢者など抵抗力の弱い方は、下痢やおう吐がきつ

かけとなつて重症化する場合があります。早めに医療機関を受診しましょう。

## ○予防方法

ノロウイルスは、口から体内に入り感染します。感染経路となるのが手指です。そのため感染予防の基本は「手洗い」です。石けん（液体石けんがおすすめ）を使って、30秒以上洗いまししょう。石けん自体にはノロウイルスの活動を抑える効果はありませんが、手の脂肪等の汚れを落とすことにより、ウイルスを手からはがれやすくする効果があります。

アルコールなどの手指消毒薬はノロウイルスには効きません。

また、ノロウイルスに汚染された食品を食べ、食中毒を起こすこともあります。ノロウイルスに汚染されている食品でも「中心温度85℃以上1分間以上の加熱」をすると、感染性はなくなります。食べ物（特にカキなどの二枚貝）にはよく火を通しましょう。

## ○二次感染の予防

患者のふん便やおう吐物には、直接触らないようにします。

患者のふん便やおう吐物には、大量のウイルスが含まれています。処理を行う際には、使い捨て手袋やマスクを着用します。処理後は必ず石けんと流水で手を洗います。うがいも忘れずに行います。

ふん便やおう吐物は、ペーパータオル等で拭き取り、ビニール袋に入れて捨てます。拭き取った後の床やトイレは、塩素系消毒剤（次亜塩素酸ナトリウム）で消毒します。塩素系消毒剤の代用品として、塩素系漂白剤（商品名：ハイター・ブリーチなど）も使えます。

手すりやドアノブ・水道の蛇口など、直接手で触れる機会のある場所は、消毒液に浸した雑巾で拭きましょう。衣類など塩素系の消毒薬が使用できない場合には、熱湯消毒をします。85℃以上の熱湯消毒が有効です。

ノロウイルスは、乾燥すると容易に空気中を舞い、これが口から入って感染することがあるので、処理後は、窓を開けるなどして換気も必要です。

これからの季節は、ノロウイルスだけでなく、風邪やインフルエンザなどの感染症も流行します。これらの感染症の予防も「手洗い・うがい」が基本です。

手洗い・うがいを励行して、元気に冬を過ごしましょう。

# 秋の全国火災予防運動

11月9日(土)から15日(金)までの期間は「平成25年度秋季全国火災予防運動」の期間です。

今年『消すまでは心の警報 オンのまま』を統一標語に、全国一斉に火災予防運動が実施されます。

この時季は空気も乾燥し、火災が起きやすくなるのが予想されます。火災は自分だけでなく他の人の幸せを奪ってしまう恐れがあります。火災を未然に防ぐには、皆さん一人ひとりが防火意識を持つことが非常に大切です。この機会に、ぜひもう一度火の取り扱いについて、家庭で確認してみてください。うか。

## 《住宅防火 命を守る》

### 7つのポイント

#### 1-3つの習慣・4つの対策

◆寝たばこをしない

◆ストーブには、燃えやすいものを近づけない

◆ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す

◆逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する

◆寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災製品を使用する

◆火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する

◆お年寄りや体の不自由な人を守るために、隣近所の協体制をつくる

## 《消防団からお願い》

○秋の火災予防期間中、五霞町消防団が夜8時から1〜2時間程度、それぞれの分団の管轄する行政区を警鐘を鳴らしながら巡回しますので、ご理解ご協力をお願いします。

○火災発生時には危険防止並びに迅速な活動を実施するため、現場周辺への立ち入り及び消防水利周辺への駐車などはご遠慮ください。

## ○お問い合わせ

総務課 行政・防災G  
☎(84)1111 (内線214)